

# 病害虫発生予察注意報 第1号

病害虫名：コムギ赤かび病

1 発生予想 コムギ赤かび病が多発する恐れがある。

2 対象地域 県内全域

3 根拠

(1) 気象庁のアメダス気象データから、4月の「子のう殻形成好適日」(表1)及び「子のう胞子飛散好適日」(表2)を算出したところ、本年は近年発生が多かった令和5年と比較して好適条件が多く出現した。また、本病は、開花期からその後2週間までが感染しやすく、特に開花期が最も感染リスクが高い。本年は、開花期が子のう殻形成好適日及び子のう胞子飛散好適日と重なった(表3)。

- ・子のう殻形成好適日及び子のう胞子飛散好適日：  
発生予察事業の調査実施基準(農林水産省植物防疫課、令和5年3月作成)に基づき、算出  
※子のう殻形成好適条件は、日平均気温13℃以上で、前日または当日に降雨があった日  
※子のう胞子飛散好適条件は、日最高気温15℃以上かつ日最低気温10℃以上で、平均湿度80%以上または当日に降雨があった日
- ・子のう殻形成好適日：コムギ赤かび病の原因菌が子のう殻(胞子をつくる器官)を形成しやすい気象条件となった日
- ・子のう胞子飛散好適日：コムギ赤かび病菌が形成した子のう殻から、子のう胞子が飛散しやすい気象条件となった日

表1 子のう殻形成好適日数(4月)

アメダス観測地点	令和8年	令和5年	令和5年比
長野	9	3	300%
上田	8	6	133%
伊那	10	8	125%
松本	9	3	300%

表2 子のう胞子飛散好適日数(4月)

アメダス観測地点	令和8年	令和5年	令和5年比
長野	2	2	100%
上田	1	2	50%
伊那	3	1	300%
松本	3	2	150%

表3 小麦の開花期と子のう殻形成好適日(★)及び子のう胞子飛散好適日(○)(令和8年)

5月																											令和5年比出現率			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	★	○		
長野地域※2 品種：ハナチカラ	令和8年	★	★	★	○	★	★							★	○	★	○												225%	133%
	令和5年	★							★	○					★	○	★	○												
上田地域 出穂期4/27 品種：しろゆたか	令和8年		★	★	★	★							★	○	★	○													175%	100%
	令和5年	★							★	○					★	○	★	○												
上伊那地域 出穂期4/25 品種：ハナチカラ	令和8年		★	★	★	○	★								★	○	★	○											100%	100%
	令和5年	★					★	○	★	○	★	★						★	○											
松本地域 出穂期4/28 品種：ゆめかおり	令和8年		★	★	○	★	★									★	○	★	○										150%	100%
	令和5年	★							★	○							★	○	★	○										

- ※1 開花期は、1穂当たり開花している小花が確認できる穂が全穂数の40~50%に達した日とした
- ※2 開花期は、長野県農業試験場作物部(須坂市)のほ場(播種：令和7年11月上旬、出穂期：令和8年4月29日)
- ※3 上田地域、上伊那地域及び松本地域の推定開花日は、本年度の出穂期(農業技術課調べ)を基に、出穂期から開花期(開花盛期)までの期間を、ハナチカラ10~11日、しろゆたか12~14日、ゆめかおり11日(2024年、農業試験場)を参考に推定した
- ※4 開花期(開花盛期)を黄色で示した。また、開花期から2週間を紫色で示した  
出現率の期間は、開花期前後として、5月1日から5月14日までの間を算出した

(2) 北信地域の一部のほ場において、5月18日に初期病徴が確認された。

(3) 気象庁が5月14日に発表した1か月予報によると、気温は高め、降水量は平年並か多いとなる見込みで、今後もコムギ赤かび病の感染に適した気象条件が続くと予想されている。

(4) 雑草の繁茂や早期に倒伏がみられるほ場では、コムギ赤かび病に感染しやすい。



写真 コムギ赤かび病の初期病徴（5月18日）

#### 4 防除対策と留意点について

- (1) 開花期からその後2週間までが感染しやすい期間であり、この間に曇雨天が続くと多発する。これまで防除を行っていない場合は、直ちに防除を実施する。開花期に防除を行った場合にも、その後降雨が続くようであれば、追加防除（1回目の防除の10～14日後）を行う。
- (2) 凍霜害がみられるほ場では傷口から感染しやすく、また雑草の繁茂や早期の倒伏が見られるほ場では、防除効果が低下しやすいため、防除方法に注意する。
- (3) 今後も、降雨により発病が助長される可能性があるため適期に収穫する。
- (4) 収穫後の穂は水分を含んでおり病原菌が増殖する危険があるため、収穫後はできるだけ速やかに乾燥させる。

(問合せ先)

担 当 病害虫防除部 近藤、藤沢

電 話 026-248-6471

ファクシミリ 026-248-6473

電子メール bojo@pref.nagano.lg.jp